

D e s i g n

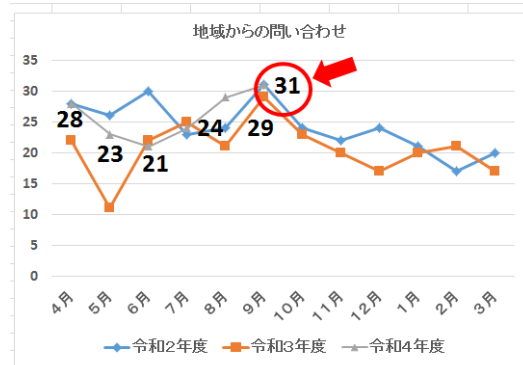
～ 換 気 を 徹 底 し ま し ょ う ～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

令和4年9月の問い合わせ状況について

～ 年末年始も受け入れさせていただきます ～

令和4年9月は、31件のお問合せを頂戴しました。例年のこととなりますが、年末年始も受け入れさせていただきますので、ご紹介をお願いします。



老健やましろより

～ 母から息子への手紙 ～

コロナ禍となり3年が経過しようとしています。施設内での入所者様の生活が家族に伝わりづらくなり、当施設でも窓越し面会やオンライン面会を実施したり、レクリエーションの写真や入所者様から家族様宛の手紙をお渡しさせていただく等して、少しでも入所者様と家族様のつながりを持っていただけるようにしています。

先日、ある家族様が、嬉しそうにお母様からの手紙を私に見せてくださいました。その手紙は、101歳の方が書いたとは思えないようなしっかりした文字で、母から息子への日ごろの感謝と、日々畑仕事に出る息子への気遣いがつづられていました。何歳になっても母親は息子のことが心配で、息子も母親が元気に過ごしてほしい…親子の関係はずっと変わらないのだと思います。

コロナ禍以前、この利用者様と息子様は、農繁期以外毎週のように老健1階の地域交流スペースで面会をされ、楽しそうに長時間会話されていました。その様子を私は「よくあれだけ毎週話すことがあるなあ」と思いながら見ていたのを思い出します。

当施設は、10月1日から入所定員が100床から66床になり、4階フロアが閉鎖されました。長年老健で勤務してきた私や、4階フロアで勤務していた職員たちは少し寂しい思いもありますが、これからもさらに利用者様やご家族様に喜んでいただける施設となるよう取り組んでまいりたいと思っております。そして、令和5年4月に、4階が京都山城総合医療センター回復期リハビリテーション病棟として生まれ変わった際にも、当施設から異動になった介護スタッフが老健での経験を活かして活躍してくれることを期待しています。

(老健やましろ 管理部長 三村 裕子)

ケアプランセンターやましろより

～ 開設から半年が経ちました ～

ケアプランセンターやましろを開設し、半年が経過しました。当院を退院される患者さんへの支援の他、地域の皆様からのご紹介により支援させて頂くことも増え、この場をお借りして御礼申し上げます。一方で、ご紹介頂いた利用者さんは、出来る限り担当させて頂きたいと考えていますが、管理者の田中ケアマネジャー1人が業務に携わっているため、支援に急を要する場合など、やむなくお断りせざるを得ないこともあり、お詫び申し上げます。

田中ケアマネジャーの業務を側から見てみると、関係機関とのサービス調整やモニタリング訪問、給付管理などケアマネジャーの業務が多岐に渡ることや、介護保険制度でのケアマネジャーの業務の重要性について改めて感じているところです。

不十分な点もあるかと思いますが、引き続き、当組合のケアプランセンターやましろをご愛顧頂きますようお願い致します。(南出)

*

0774-71-0039 (担当：田中)

地域医療連携室より

～ 回復期リハビリテーション病棟の開設工事が始まりました ～

ヤクルトスワローズの村上選手、56号ホームランを打ちました。55号ホームランで王選手の記録に並んでから、なかなかホームランが出ませんでした。最終戦の最終打席で日本人新記録の56号ホームランって、ドラマチック過ぎませんか？ご飯食べながらテレビを観ていたのですが、思わず鳥肌が立ちました(ヤクルトスワローズファンの妻、小学生の長男は大興奮していました)。コロナや物価高、ロシアのウクライナ侵攻や北朝鮮のミサイル発射などの暗いニュースが多い中で、久しぶりに、そして純粋に喜べる嬉しいニュースでした。

*

さて、令和5年4月の回復期リハビリテーション病棟(34床)開設に向け、この10月から老健やましろ4階フロアの転換工事が始まりました(転換工事に伴い、老健やましろは100床から66床になりました)。そして、回復期リハビリテーション病棟の運用や職員募集、広報などについて関係部署で検討し、開設の準備をしています。今回の事業転換での地域医療連携室の役割は、2つあると考えています。1つは、患者さんの病状や今後の患者さん・ご家族の意向を踏まえた上で、患者さんにとって適切な時期に適切な病棟(急性期、回復期、地域包括ケア病棟)で治療及びリハビリテーションを受けて頂けるよう支援することだと考えています。もう1つは、患者さんが退院後もADLが低下しないよう入院中から地域の関係機関の皆様と連携し、支援することです。

新型コロナの感染状況にもよりますが、開設前の3月には内覧会をしたいと考えています。広く、当院の回復期リハビリテーション病棟を知って頂く機会にさせて頂くと共に、この地域の未来について共に考える一助になれば嬉しく思います。(地域医療連携室 室長 南出 弦)